

持続可能な社会の実現をめざす

気候変動に対する意識は、世界中で高まってきています。このまま地球温暖化に対する対策を行わないでいると、異常気象の多発によって資産に影響を及ぼす物理的なリスクが高くなります。2015年、フランス・パリで行われた「第21回気候変動枠組条約締約国会議」において採択された「パリ協定」では、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする」という、世界共通の長期目標が掲げられました。

気候変動への対応が急務となっている今、PPIHグループは持続可能な社会の実現をめざし、環境に配慮した自社PB商品の開発、植物由来の素材を使用したレジ袋の使用など、私たちの本業を通じて環境負荷の低減に積極的に取り組んでいきます。

PPIHグループ 環境方針

気候変動、海洋汚染をはじめ、地球規模で環境問題が深刻化している今日、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、当社グループは企業活動を通じて貢献します。

- 国内外に店舗を展開する総合小売グループとして、環境負荷の少ない安全・安心な商品・サービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 全従業員がこの環境方針にもとづき、それぞれの立場で環境問題について考え、自分の役割を自覚して行動するよう努めます。
- 事業にかかわる環境負荷の低減に取り組みます。
 - 低炭素社会の実現のために、店舗運営における省エネルギー、再生可能エネルギーの導入などの取り組みにより、CO₂排出量の削減を目指します。
 - 循環型社会の実現のために、廃棄物削減・リサイクル推進に努めます。
 - 包装材の削減・リサイクルを進めるとともに、リサイクル・バイオ素材など環境負荷の少ない包装材への切り替えを目指します。
- 自主企画商品における環境負荷を低減します。
 - お客様の声を商品開発に反映し、お客様のニーズに合ったものづくりに努めることで、廃棄物のもととなる不要な商品をつくらず、環境にやさしい商品開発に努めます。
 - 生物多様性に配慮し、持続可能な原材料の調達を推進します。
- 環境法令等を遵守するとともに、この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客さまと一緒に地球環境保全活動を推進します。

捨てられてしまう製品を根本から減らす

日本における衣料品の年間廃棄量は約100万トン*1と言われており、そのうちの7割が焼却処分され、リユース(再使用)やリサイクル(再資源化)につながらないのが現状です。当社グループはこの問題に着目し、独自のPB商品を開発しました。

2017年3月から、ドン・キホーテプライベートブランド「情熱価格PREMIUM」にて、「スライドソールチェンジ」の発売を開始。これは、工具不要でヒール交換がワンタッチでできる特許申請技術を備えたビジネスシューズで、お客さまに1つのシューズを長く使っ

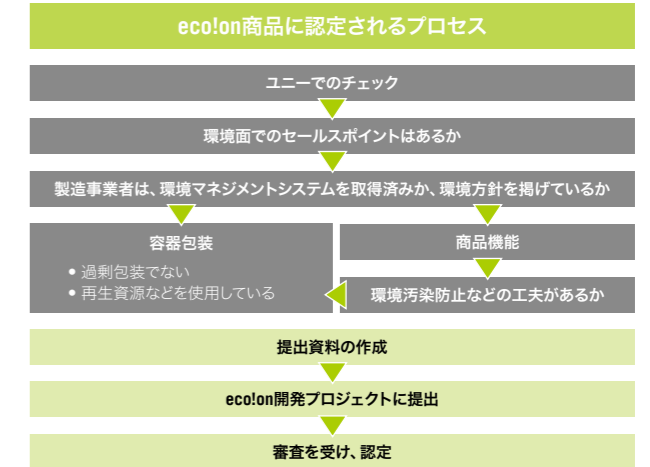
ていただくことで、シューズの廃棄量や焼却時に排出されるCO₂を根本から減らす取り組みを進めています。

*1 中小企業基盤整備機構調査



環境配慮型商品「eco!on(エコオン)」

当社グループは、私たちの普段の生活を省エネ・省資源といったエコライフスタイルに変えることで、持続可能な社会構築に貢献できると考えています。ユニーが企画・開発する環境配慮型PB商品「eco!on」は、原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった、生産者から販売者・購入するお客さま・再生利用事業者などのつながりのなかで、環境負荷を低減させた商品です。お買い物の際、「環境にやさしい」という視点で商品を選んでいただくことで、お客さまと一緒に地球環境の保全に貢献し、持続可能な社会の構築をめざしていきます。



食品ロス削減・食品リサイクルループの構築

日本ではまだ食べられる食品のロスが全国で643万トン*2に及ぶなど、世界中で食品廃棄が問題視されています。そこで、食品残さ(野菜クズや魚アラ)を排出する店舗と、堆肥や飼料を製造する再生利用事業者、それを使って農畜産物を生産する農業生産者とのパートナーシップを各地で構築し、食品リサイクルループによる

地域循環型農業で食品ロス削減に努めています。食品リサイクル率は85.1%(2018年度)と小売業界の目標である55%を大きく上回っており、今後も発生抑制(リデュース)となる食品ロス削減と、食品リサイクルに継続して取り組んでいきます。

*2 農林水産省「食品廃棄物等の発生量(平成28年度推計)」(2019年4月12日時点)

中部有機リサイクル株式会社と進める「食品リサイクルループ」



■ 循環型社会の実現に向けて

ユニーは、特定事業者として再商品化やリサイクルに取り組んでおり、家庭から出るごみの約6割を占める容器包装やレジ袋の削減を行っています。容器包装をできるだけ使わない販売、使った後の容器包装を廃棄物にしない、サステナブルな原料を使った容器包装を使用するなど、お客さまとともに3R(リデュース・リユース・リサイクル)を実施し、環境負荷低減に取り組んでいます。

店頭では、家庭ごみの削減と再資源化を図るため、使用済みの食品トレイ、牛乳パック、アルミ缶、ペットボトル、ペットボトルキャップなどの容器包装を回収し、資源としてリサイクルしています。店頭回収量は年々増加しており、容器包装を資源としてリサイクルすることで資源の有効活用とCO₂排出量削減にもつなげています。今後もお客さまと一緒に容器包装の削減と再資源化に取り組んでいきます。



ユニーは、2007年から「レジ袋無料配布中止」を始め、植物由来のバイオポリエチレンを25%含有した「バイオマスプラスチック製容器包装」を有料レジ袋として販売しています。

店頭で回収した使用済み容器はリサイクルセンターに送られ、製品の原料などにリサイクル処理。そこで精製された原料をもとに、環境配慮型PB商品を生産しています。



■ 回収した使用済み容器のリサイクルループ

店頭で回収された容器は、国内3カ所に設置したリサイクルセンターに集約しています。リサイクルセンターでは、各店舗で回収した容器を計量し、効率的に搬送しやすいように圧縮したうえで、それぞれのリサイクル工場に搬出します。また、リサイクル回収の輸送にかかる無駄な燃料やCO₂の排出量を削減するため、店舗からリサイクルセンターに搬送する際は、商品配送の帰り便を使用しています。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

■ 容器包装リサイクルの仕組み



■ オリジナルエコバッグの導入によるレジ袋削減

日本で多く利用されているレジ袋は、リサイクルされず、そのままごみとして捨てられてしまうことがほとんどです。当社グループは、ごみになるものを削減することが商品を提供する私たちの責任であると考え、お客さまとともに包装資材の使用量削減に取り組んでいます。2018年7月から全国の「ドン・キホーテ」「MEGAドン・キホーテ」「MEGAドン・キホーテ



■ 環境マネジメントの強化

ユニーは、ISO14001環境マネジメントシステムを用い、店舗や事業所が環境に与える影響を調べて改善することに努めています。2004年1月にユニー本社事務所がISO14001を取得した後、2019年7月は全店で認証取得を完了。廃棄物削減・リサイクル推進・省エネ活動で成果を上げており、それが商品の販売とともに企業の存在価値につながっていると、審査機関から評価されました。

また、環境方針・環境目標などの理解を深め環境活動を実践していくために、従業員への教育も行い、環境マネジメントの内部監査員認証取得者は418名(2019年2月期時点)になりました。



環境マネジメントの内部監査員養成合宿の様子

UNY」「ピカソ」で「オリジナルエコバッグ持参でmajicaポイント2ポイント付与」のサービスを開始(一部店舗を除く)。レジ袋の削減により、廃棄物の減量や環境保全にも貢献しています。

また、ユニーは2007年からレジ袋無料配布中止(有料化)を開始し、2014年に全店舗でレジ袋無料配布を中止しました。レジ袋辞退率は全店舗で85.8%(2019年実績)になり、レジ袋使用枚数を大きく削減しました。

■ 店舗におけるISO14001の環境目標

- | | |
|---|-----------------|
| ① | 電気使用量の削減 |
| ② | 廃棄物の削減とリサイクルの推進 |
| ③ | 排水水質基準の遵守 |
| ④ | 環境関連法令の遵守 |
| ⑤ | 営業と一体となった地域貢献活動 |



従業員から提案された「環境側面」という重視すべき環境課題に取り組む

■ ISO14001集合教育

環境マネジメントの適正な運用と環境法令遵守など、部署や店舗の業務から環境側面を抽出し、環境実施計画を策定。目的目標を達成するために必要な力量を得るための教育を全従業員に年2回行っています。



ISO14001集合教育の様子